

小・中学校社会科研究部

I 研究主題

『児童・生徒が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を伸ばす社会科学習指導』
～小・中見通した判定基準を踏まえた課題解決評価の工夫～

II 主題設定の理由

本研究部は、小・中の連携、接続を目指し小・中社会科研究部として昨年度新たに発足し『児童・生徒が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を伸ばす社会科学習指導』～小・中を見通した、判定基準の設定～をテーマに進めてきた。

昨年度は、学習指導要領に示す内容が一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価するため、児童が「何を」「どのように」思考・判断すれば、「思考力・判断力」が身に付いたと言えるのか、その基準となる判定基準を設定した。また、児童・生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を図りつつ、小・中のつながりを考えたときに「小学校の[A：十分満足できる]の評価は中学校ではどのレベルを言うものなのか。」「小学校から中学校に送る際に、どの程度までの考え方を身につけさせればいいのか。」ということ踏まえながら研究に取り組んだ。

研究を進める中で以下の課題が出てきた。

- ・ 1単位時間ずつの判定基準ではなく、1小単元ずつの判定基準の設定
- ・ 歴史的分野に限らず、地理的分野、公民的分野における判定基準の設定
- ・ 小・中に共通した思考力・判断力・表現力の判定基準を設定する中で、児童・生徒の考え方を広げたり生み出したりする課題の設定

そこで、本年度は学習課題に対する思考の過程を表現させる指導の工夫などの研究を通じ、表現力の育成を図るための課題解決評価の在り方を重点におき、判定基準と課題設定の妥当性、小・中の連携について研究を進めていく。

III 研究の内容

1 研究の仮説

判定基準を活用して、児童・生徒に学習課題を提示し、思考の過程を評価して、一人一人適切に指導助言を行うことができれば、「思考力・判断力・表現力」を確実に伸ばすことができるだろう。

2 研究の取り組み

(1) 小・中学校を見通した授業づくり

小・中のつながりを考え、課題設定を行った。

○小・中学校の評価の観点の趣旨の違いを整理する。

小・中の評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所編）をもとに、各校種の思考力・判断力・表現力の評価の観点の趣旨を比較し違いを明確にする。（表1）

○小・中学校を見通した教材設定

本研究において小・中で共通した単元では、小学校（5年）で10～12月、中学校（2年）は7～12月に地理的分野の「工業」を地方別に取り上げるため、共通に研究できる教材として「交通網」を設定する。

○思考力・判断力・表現力を育てる課題づくり

（表1）を生かして、小・中学校のつながりを考え、課題づくりを進める。

	小5	中・地理
	我が国の国土と産業の様子に関する社会的	地理的
問題・課題の特質と引き出し方	事象から	
どのような問題や課題に直面させるか	学習問題	課題
	を見いだし	
	追究し	
思考の対象と様相	社会的事象の意味	日本や世界の地域的特色を 地域の規模に応じて
直面した問題や課題を解決するためにどのように思考するか	について(を)	環境条件や人々の営みなどと関連づけて
		多面的・多角的に
判断の視点や用いられる情報と様相	思考・判断したことを	考察し
直面した問題や課題を解決するために何をどのように判断するか		公正に判断して
求める表現		その過程や結果を
思考・判断を働かせて問題や課題を解決した過程や結果を表現	適切に表現している。	

(2) 判定基準を活用した、学習課題の提示と思考過程の評価・指導助言の工夫

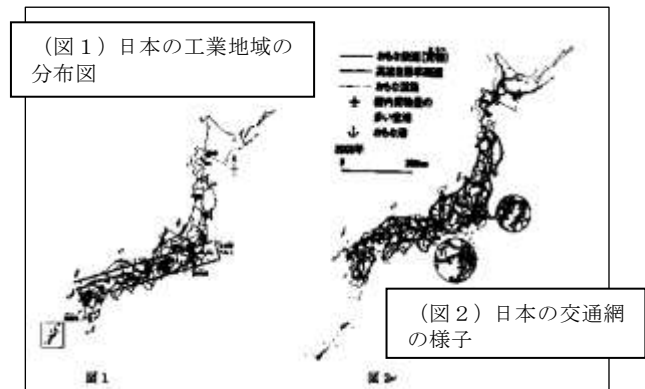
○判定基準の設定

表1から判定基準を設定することで、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にし、それをもとに学習課題をつくる。

○調べる段階の工夫

小学校においては、発達段階を考え2枚の図をもとに比較し、その違いについて考えを書き込ませ、判定基準におけるより高い評価に近づけるように指導助言を行う。

中学校においては、生徒が思考・判断するための参考となる資料を複数提示するとともに、判定基準を明示することで、生徒自身が思考・判断・表現を意識して学習に取り組めるようにする。



(3) 小学校2校で同じ指導案のもと、ノート記述とテストの結果から、児童の変容を分析することで、判定基準と学習課題設定の妥当性を見いだす。

○児童・生徒のノートから思考力・判断力・表現力をより伸ばせる指導の工夫

B評価「おおむね満足できる」に至らないと判定された児童・生徒に対して判定基準を活用し、考え方についての指導助言を行う。同様にB評価とされた児童・生徒をA評価「十分満足できる」に上げるため、中学校の学習内容を意識した指導助言を行い、2校の結果を考察することで妥当性を見いだす。（詳細は実践例を参照）

IV 実践例①

〈所沢市立所沢小学校・美原小学校第5学年の事例〉

1 単元名 わたしたちの生活と工業生産

小単元名 工業生産と工業地域

2 研究主題との関わり

思考力・判断力・表現力を伸ばし、問題解決的思考を身に付けさせるためには、創造的思考と批判的思考という2つの思考を利用していくことが必要となる。小学校で行われるテスト評価は、考え方を一つに絞り込んでいく思考（批判的思考）についての評価であり、児童の考え方を広げたり増やしたりする思考（創造的思考）を評価するためには、それに合わせた授業を展開していかなければならない。話し合い活動を取り入れても、それを思考力・判断力・表現力として評価することは難しい。しかし、具体的な判定基準を設けることで、子どもたちの思考力・判断力・表現力を評価することができるとともに、評価方法の改善のための手立てを示すことができるようになる。

本単元において、小学校では、国土の特色を総合的にとらえることを目的としており、中学校では、多面的・多角的に学習することが求められる。輸送手段とその工夫に関連する資料の提示や、日本の交通網と工業地域の地図を重ねる活動を通して、思考・表現・判断する力を身に付けられるようにし、中学校での学習につなげていきたい。

3 小単元の目標と評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の工業生産について、「様々な工業生産が国民生活を支えていること」「我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など」「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える運輸などの働き」などを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしているということを考えるようにする。

(2) 小単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
我が国の工業生産や工業地域の様子に関心を持ち、主な工業生産の種類、工業地域の分布や工業を支える運輸などの働きについて進んで調べようとしている。	我が国の工業生産や工業地域の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、その特色や現状を国民生活と関連づけて考え、我が国の工業生産がすぐれた技術をもって営まれ、国民生活を支える重要な役割を果たしていることを表現している。	地図、統計、写真などの資料を活用して必要な情報を集め、我が国の工業生産や工業地域の特色や現状を読み取ってまとめている。	我が国の各種の工業生産や工業地域の分布、工業生産を支える運輸などの働き、各種の工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

4 指導計画

第1時 豊田市の工場地域の広がり方について考え、学習問題をつかむ。

第2時 我が国の工業地帯や主な工業地域の位置、工業生産額、工業の種類を調べ、発表する。

- 第3時 鯖江市の特色あるめがねわくの製造の様子を調べ、わかったことを発表する。
- 第4時 大田区の工業生産の様子を調べ、中小工業の特色について調べる。
- 第5時 様々な交通機関の広がりや物流に携わる人々の工夫について調べ、わかったことや考えたことを発表する。(本時)
- 第6時 工業生産と工業地域についての相関図を作成する。

5 本時の学習指導 (5 / 6 時)

(1) 本時の目標

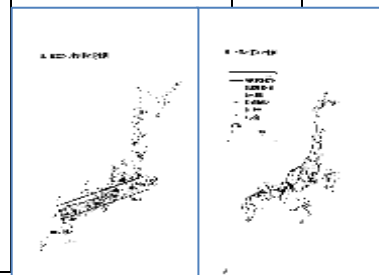
交通網の拡充や物流の仕組みによって、我が国の生活と工業生産が支えられていることを考え、表現する。 (思考・判断・表現)

(2) 本時の展開


段階	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 □評価	資料・準備	時間
導入	1 完成した自動車の届き方を考える。 ・いくつかの場所を経由して、消費者に届けられること。	・既習内容と関連付けて考えさせるようにする。 ・直接、届けられるのではないことに気付かせるため、補助発問を入れるようにする。 ・黒板に板書し、視覚的に示すようにする。		5
展開	2 本時の課題を確認する。	工業製品の輸送の秘密を探ろう。 ・自分なりの予想を持たせるようにする。		3
	3 物流の仕組みと工夫を考える。 ・輸送のための交通手段。 ・トラックターミナルの広さや共同集配の工夫。 ・物流の仕組み	・資料に合わせ、整理して板書する。 ・トラックターミナルの広さを身近な例で示し、規模の大きさを実感させる。 ・身近な例を挙げ、共同集配の仕組みを理解させるようにする。 ・物流の仕組みが誰のためになるのかということを補助発問から考えさせるようにする。	・交通手段の写真 ・トラックターミナルの写真 ・共同集配の仕組みの図 ・交通網の地図	7
	4 全国の工業地帯の分布と全国に広がる輸送網の2つの資料のつながりを考え、発表する。 ・工業地帯と輸送網が重なっていること。	・個人→グループ→全体の順に活動範囲を広げ、一人一人の考えを共有し、学習が深まるようにする。 ・工業地域と輸送網の関係性を2つの資料から考えさせるようにする。(机間指導) 思 日本の工業地帯の分布図と日本の主な交通網の資料を関係付けて読み取り、交通網の拡充や物流の仕組みについて自分なりに考え、ノートに表現している。(ノート)	・工業地帯の分布図 (トレーシングペーパー) ・ノート	20



個の考えを持ち寄り、グループで共有している場面



日本の工業地帯の分布図(左)と日本の輸送網(右)の資料からその関係性を探る。

まとめ	5 本時の学習をまとめる。	・本時の学習内容をふまえて考えさせるようにする。	<div data-bbox="1244 89 1516 190" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グループでまとめた考えを全体で深める場面</div> 	10
	まとめ	交通網の広がりや物流の仕組みにおける工夫や努力が、私たちの生活と工業生産を支えている。		

(3) 判定基準（視野・思考・判断・表現）と児童の回答

評価の判定基準	
社会的な思考・判断・表現	
交通網の拡充や物流の仕組みによって、我が国の生活と工業生産が支えられていることを考え、表現することができる。	
A 十分満足できる状況	○日本の工業地帯の分布図と日本の主な交通網の資料を関係付けて読み取り、交通網の拡充や物流の仕組みから、環境面の配慮、輸送費の削減など国民生活や工業生産との関わりについて自分なりに考え、ノートに表現している。
B おおむね満足できる状況	○日本の工業地帯の分布図と日本の主な交通網の資料を関係付けて読み取り、交通網の拡充や物流の仕組みについて自分なりに考え、ノートに表現している。
Bに達しない児童の状況とその手だて	○ワークシートの内容の一点に固執していること、また本時の学習内容の流れ、既習内容が理解できていないために、自己の価値基準の表現にとどまっている。 ⇒日本の工業地帯の分布図と日本の主な交通網の資料を見比べて、気づくことはあるかななどの補助発問を行い、2つの資料を比べさせるようにする。 ○本時の学習内容の流れ、既習内容が理解できていないために、自己の価値基準の表現にとどまっている。 ⇒今日調べたことの、どこと関係があるのかななどの補助発問をし、学習問題と学習活動が関連付けられるようにしていく。

A：十分に満足できる児童の状況（児童の回答）

- ・工業製品を届けるためには、いろいろな輸送手段が必要で、輸送する人は消費者のためにてぎわよく輸送している。私たちの生活を支えている。
- ・ものを運ぶ手段が増え、楽に運ぶことが可能になり、消費者にちゃんとつくようになった。

B：おおむね満足できる児童の状況（児童の回答）

- ・太平洋ベルトの近くには空港や港がたくさんある。それは輸出や輸入を楽にするため。
- ・工業製品の輸送はトラックなどいろいろなものです。工業地帯に近いところにたくさん集まる。

C：Bに至らない児童の状況（児童の回答）

- ・沖縄に空港がある。
- ・外国にも輸出している。
- ・記述なし

実践例②

〈東中学校第2学年の事例〉

1 単元名 第3章 日本の諸地域 ～東北地方 伝統産業と新しい産業～

2 研究主題との関わり

中学校で行われる評価は、客観テスト(定期テスト等)によるものが主流となっているが、知識・理解は評価できたとしても思考・判断などの評価は難しい。グループワークなどの話し合い活動を取り入れても、それを思考力・判断力・表現力として評価することは難しい。しかし、具体的な判定基準を設けることで、子どもたちが自分の思考力・判断力・表現力を自覚し、より高い次元を目指し意欲的に学ぶことができると考える。

また、小学校では、国土の特色を総合的にとらえることを目的とし、中学校での目的は、多面的・多角的に学習することが求められることから、複数の資料に基づき、さらに既習事項と関連付けながら、思考・判断・表現する力を身に付けられるようにする。

3 単元の目標と評価規準

(1) 小単元の目標

- ①東北地方の地域的特色を、伝統的な生活や文化を通して、その自然環境や歴史的背景、他地域との交流などから多面的に考察させる。
- ②伝統的な生活や文化は、交通の発達や国際化など他地域との結びつきによって変容していることをとらえさせる。

(2) 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
東北地方の自然環境、人口、産業などの特色について概観する中で、特に伝統的な生活や文化に関心を持ち、設定した追究テーマを基に、地域的特色を意欲的に追求しようとしている。 東北地方の祭りや伝統産業などととも、身近な地域の祭りや伝統産業にも関心が高まっている。	東北地方の地域的特色を、生活・文化を中核とした考察を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 東北地方の生活・文化の変容を、交通の発達や国際化など他地域との結びつきに着目してとらえている。	東北地方の地域的特色に関する各種の地図や統計、写真などの資料を収集している。 収集した資料から、東北地方の地域的特色について、有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり図表などにまとめたりしている。	東北地方について、自然環境や人口、産業などの特色を大まかなにとらえている。 東北地方について、生活・文化を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

4 小単元の指導計画

第1時 ①東北地方の地形の特色を、3つの山地に着目してとらえる。

②東北地方の気候について、太平洋側と日本海側の違いを、資料を使ってとらえる。


- 第2時 ①東北地方の人口分布と産業の特色をとらえる。
 ②これまでの学習を踏まえて、追究テーマに対する仮説を立てる。
- 第3時 ①東北地方の伝統的な生活や文化を自然環境や歴史的背景、産業と関連付けている。
 ②伝統的な祭りや食文化、歴史的な町並みとその保存について関心を持つ。
- 第4時 ①東北地方の伝統的な産業が発達した理由と、国際化などによる変容をとらえる。
 ②新しい産業が、高速道路など交通網の整備とともに発達していることをとらえる。
 (本時)
- 第5時 ①地方中枢都市の仙台市で新しい文化が形成されていることを、他地域との結びつきに着目してとらえる。
 ②東北地方の伝統的な生活や文化とその変容について、まとめる。

5 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- 東北地方の伝統産業と新しい産業を比較して、国際化に着目して、それぞれの特色や課題をとらえ、東北地方の工業が、東京への交通の便利な地域を中心に伸びていることを、地図やグラフなどから読み取り、表現できる。(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開 (本時4 / 5時)

過程	学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ・生徒の予想される反応
導入	1 東北地方のおもな伝統工芸品を学習する。 (5分)	・東北地方の伝統工芸品 ①南部鉄器…岩手県盛岡市 ②こけし…宮城県 ③会津塗…福島県 ④天童将棋駒…山形県	 *資料
展開	2 本時の学習課題を確認する (3分)	学習課題 東北地方の工業は、どのように発展してきたのだろうか。	
		学習内容① 東北地方の伝統産業の移り変わり	
	3 東北地方で、伝統産業が発展してきた理由を考える。 (5分)	・東北地方の伝統産業の発展理由 (気候との関連)	・昔から手作りの工業が得意な人が多かったから ・雪で農作業ができない時間に、つくっていたから ○班ごとに5分話し合い、代表者が発表(各班1分)させる。
4 どうしたら伝統工芸品(南部鉄器)を守ることができるかを考える。 (15分)	・大量生産による安い製品の普及、海外からの輸入品の増加の影響 ・職人の高齢化 ・伝統工芸品の維持と国際化との対応	・後継者の育成、訓練校の設置 ・流行を取り入れた新しいデザイン ・ガスコンロやIH調理器などに対応	

- デザインが工夫された南部鉄器や南部鉄器が内窯にしようされた炊飯器の写真を提示する。
- 発表後、生徒の投票でMVPを決めさせる。

学習内容② 東北地方の新しい工業の発展

5 東北地方の工業生産額が年々どのように変化しているかを考える。
(5分)

- ・東北地方の工業の発展

- 挙手→個人で理由を発表させる。
- ・発展していない…過疎地域
- ・発展している…高速交通網

6 東北地方の各県の工業生産額が増加している理由を考える。
(15分)

- ・高速交通網の整備
- ・高速交通網の発達とI C工場の建設
- ・出稼ぎの減少

- ワークシートを配布し、各自、資料を読み取り記述させる。
- 隣同士でチェックをさせる。
- 模範解答プリントを配布し、自己採点をさせる。

生徒に対して、評価の際の判定基準を示した。


ワークシート

●評価基準
 A：資料Aと資料Bをくわしくまとめ、さらに他の視点を踏まえてまとめている。
 B：資料Aと資料Bを踏まえ、人々の生活の様子の変化との関わりについてくわしくまとめている。
 C：資料Aと資料Bを踏まえているが、人々の生活とのかかわりについて、まとめの内容が不十分である。
 D：いずれにも該当していない。
 ※書き終わった後、自己評価をしよう！

- <判定基準>
- A：資料Aと資料Bをくわしくまとめ、人々の生活の様子の変化やさらに他の視点を踏まえてまとめている。
 - B：資料Aと資料Bを踏まえ、人々の生活の様子の変化との関わりについてくわしくまとめている。
 - C：資料Aと資料Bを踏まえているが、人々の生活とのかかわりについて、まとめの内容が不十分である。
 - D：いずれにも該当していない。

2学期 中間 社会科プリント No.10 2年()組 氏名()
 (教科書 p218~219)

★なぜ、東北地方の各県の工業生産額は、年々増加しているのだろうか。
 資料A・Bを見て、その理由を考えよう。



資料A

資料B

東北6県出稼ぎ者の推移 (万人)

年	青森県	秋田県	岩手県	山形県	福島県
昭和12年	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0
昭和14年	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5
昭和16年	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0
昭和18年	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5
昭和20年	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0
昭和22年	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5
昭和24年	4.5	4.0	4.0	4.0	4.0
昭和26年	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5
昭和28年	5.5	5.0	5.0	5.0	5.0
昭和30年	6.0	5.5	5.5	5.5	5.5
昭和32年	6.5	6.0	6.0	6.0	6.0
昭和34年	7.0	6.5	6.5	6.5	6.5
昭和36年	7.5	7.0	7.0	7.0	7.0
昭和38年	8.0	7.5	7.5	7.5	7.5
昭和40年	8.5	8.0	8.0	8.0	8.0
昭和42年	9.0	8.5	8.5	8.5	8.5
昭和44年	9.5	9.0	9.0	9.0	9.0
昭和46年	10.0	9.5	9.5	9.5	9.5
昭和48年	10.5	10.0	10.0	10.0	10.0
昭和50年	11.0	10.5	10.5	10.5	10.5
昭和52年	11.5	11.0	11.0	11.0	11.0
昭和54年	12.0	11.5	11.5	11.5	11.5
昭和56年	12.5	12.0	12.0	12.0	12.0
昭和58年	13.0	12.5	12.5	12.5	12.5
昭和60年	13.5	13.0	13.0	13.0	13.0

★出稼ぎ一ある期間、家を離れ、よその土地に行って働くこと。

[資料A]江戸時代、昭和43年、現在の東北地方の交通網の様子
 [資料B]東北6県の出稼ぎ者の推移

まとめ	6. まとめ (2分)	・本時のふりかえりを行う。	
-----	----------------	---------------	--

(3) 判定基準（視野、思考・判断・表現）と指導助言の例

★なぜ、東北地方の各県の工業生産額は、年々増加しているのだろうか。

資料A・Bを見て、その理由を考えましょう。

A：十分満足できる記述例

資料Aを見ると、昭和43年から現在にかけて、新幹線や高速道路などの高速交通網が整備されたことが分かる。それによって、商品のやりとりが短時間でできるようになり、新幹線や高速道路の近くに、I C工場などがつくられるようになった。また、東北地方は、過疎地域が多く、広大な土地があるため、広大な土地を利用する工場をつくりやすい。そして、工場が進出したことで働く場が増え、資料Bにあるように出稼ぎ者数が減り、工業生産額の増加につながっている。

さらに、情報通信網の発達で、日本・世界各地と情報のやり取りが簡単にできることも関係していることが考えられる。

- ・新幹線や高速道路などの高速交通網が整備されたこと
- ・高速交通網の発達により、I C工場などがつくられたこと
- ・広大な土地が多くあり、工場をつくりやすい環境にあること
- ・工場の進出により、働く場ができ、出稼ぎにいく人が減ったこと
- ・情報通信網の発達で、情報のやり取りが簡単にできること

B：おおむね満足できる記述例

資料Aを見ると、昭和43年から現在にかけて、新幹線や高速道路などの高速交通網が整備されたことが分かる。それによって、商品のやりとりが短時間でできるようになり、新幹線や高速道路の近くに、I C工場などがつくられるようになった。そして、工場が進出したことで働く場が増え、資料Bにあるように出稼ぎ者数が減り、工業生産額の増加につながっている。

- ・新幹線や高速道路などの高速交通網が整備されたこと
- ・高速交通網の発達により、I C工場などがつくられたこと
- ・工場の進出により、働く場ができ、出稼ぎにいく人が減ったこと

C：努力を要する記述例

新幹線の発達が工業生産額の増加に関係している。

そして、工場が増えたことによって、出稼ぎに行く人が減った。

6 まとめと課題

今回の東北地方の工業における判定基準による評価は、Aが5名、Bが22名、Cが5名だった。提示された資料以外の視点を持たた生徒は、これまでの東北地方の農業で学習した「東北地方の広大な面積を利用することで工場などの建設がしやすい」という視点や、3大都市圏の過密・過疎の学習を踏まえ、「東北地方の土地は安価である」という視点からの記述があった。また、資料集にある「東北地方の大学との連携」という視点からの記述もあった。

(表2) 成績変化の様子

	元寇	本時	成績変化	定期テスト	成績変化		元寇	本時	成績変化	定期テスト	成績変化
1	C	C°	↗	C		1		B ⁻		C	↘
2	C	B	↗	C	↘	2		B		B	
3	C°	B°	↗	A	↗	3		B°		A	↗
4		B°		B		4		B		C	↘
5		B		C	↘	5		C		C	
6		A		A		6		A		B	↘
7	C°	B°	↗	A	↗	7	C	B	↗	C	↘
8	C	C°		C		8		B		B	
9		B		B		9		欠		欠	
10	B ⁻	B		A	↗	10	C	C°		C	
11		B°		A	↗	11	B°	B		B	
12		C		C		12		B ⁻		C	↘
13		B°		B		13		A		C	↘
14		A		C	↘	14	C°	B	↗	B	
15		B°		B		15		A		B	↘
16		B		B		16	B ⁻	B°		B	
						17		B		B	

また、ほとんどの生徒（69%）がBであのように、7分という時間では、2つの資料の読み取りを表現（記述）することで終わってしまう。しかし、昨年度の歴史分野での元寇での判定基準のデータと比較すると、2つの資料を読み取ることができなかった生徒（C評価）がB評価になっている生徒は6名いる。判定基準の実践を繰り返すことによって、資料を読み取り表現（記述）する力が向上すると言える。

さらに授業後に実施した中間テストの思考・判断・表現の項目では、A評価が6名、B評価が13名、C評価が13名だった。（15問の記述問題の点数80%以上がA評価、79%～41%がB評価、40%以下がC評価となる）「東北地方の工業」の判定基準と比較すると、C評価の生徒が8名増加している。これは、思考・判断・表現の問題の中にも、知識が問われる要素が入ってくることが原因である。また、C評価は多くなっているが、記述欄を空白にする生徒は少なく、表現する力の向上は答案から感じられた。さらに、「東北地方の工業」の判定基準の評価から成績が良くなった生徒は5名いたことも、同様に判定基準を活用した効果と言える。

7 考察

昨年度に続き、判定基準を活用した授業を実践することによって、子どもたちは判定基準の抵抗なく、判定基準を利用し、意欲的に記述する姿がみられるようになった。結果は、すでに前述（5 結果）で述べた通りである。

課題は2つある。1つは、昨年度の実践と同様に、この判定基準をつくることは非常に時間がかかり、毎日の授業で実践することは難しい。よって、単元全体を見通したまとめ、特に思考力・判断力・表現力の育成に力を入れたい小単元での実践が望ましいと考える。もう1つの課題は、この判定基準から見えてきた生徒の力をどう支援し、向上させていくかということである。定期テストでの評価との関連をみると、相関関係にあることが分かり、それぞれの成績に応じた支援を考え、普段の授業での指導にどう生かしていくかが今後の課題である。

V まとめと課題

本研究では「地理的分野」において小学校で2事例、中学校で1事例に取り組んだ。双方の授業とも小・中の連携、接続を研究の視点とし、判定基準を活用した授業実践を図ることができた。特に小学校2校の研究により「思考力・判断力」の基準となる判定基準を設定しC評価の児童・生徒をどのように上の評価に上げていくのかの手立てを考えた。「思考力・判断力・表現力」の育成を図るための「課題設定の仕方、指導・助言の工夫」を中心として実証授業を行い、その判定基準と学習課題設定の妥当性の研究を図ることができた。

(表3) 小・中学校の接続を考えた判定基準例

評価	中学校A 評価 「十分に満足できる」	中学校B 評価 「おおむね満足できる」	中学校C 評価 「Bに至らない」			
	学習課題		「東北地方の工業は、どのように発展してきたのだろうか。」			
			小学校A 評価 「十分に満足できる」	小学校B 評価 「おおむね満足できる」	小学校C 評価 「Bに至らない」	
	学習課題		「工業製品の輸送の秘密を探ろう。」			
判定基準	視野	資料Aと資料Bを比較しくわしくまとめ	資料Aと資料Bを比較しまとめ、	資料Aと資料Bを比較し、	資料Aと資料Bを比較して、	資料Aと資料Bのどちらかかきに固執して
	思考・判断	人々の生活の様子の変化や他の視点を踏まえて	人々の生活の様子の変化との関わりについて	国民(人々)生活との関わりについて	交通網の拡充、物流のしくみについて	既習の内容を理解していない
	表現	適切に表現できる。	適切に表現できる。	適切に表現できる。	適切に表現できる。	自己の価値評価にとどまる。

本研究において小・中の連携、接続を視点とし、昨年度の歴史的分野から地理的分野へスポットを変え、「工業(運輸)」についての学習課題を設定し、判定基準(表3)を設定することができた。判定基準と学習課題設定の妥当性の研究においては以下の項目で検討した。

- ・前単元テストの「思考力・判断力・表現力」の結果が本単元テストの「思考力・判断力・表現力」の結果にどのような変化をもたらしたか。
- ・学習のノートの評価と本単元テストの結果の結びつきはどうであったか。
- ・2校の標準偏差を出すことによる比較の結果についてどうであったか。

昨年度の歴史学習においては、どちらの校種においても1単位時間で終わる内容であったとしても、単元構成が小学校と中学校では違うことが分かってきた。このことから、歴史的分野全体を見通した判定基準の設定が求められた。地理的分野においては、さらに、小学校では1単位時間で終わる内容であっても、中学校では単元全体から見いだす内容へと変わっている。これは、先に示した(表1)より中学校における「多面的・多角的」に考察することが求められているからだと考える。したがって地理的分野全体から小学校で身に付ける力、中学校で身に付ける力を判定基準に示し小・中の連携を進めることが課題と考える。